

## 2024年1月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年9月12日

上場会社名 株式会社トラス・オン・プロダクト 上場取引所 東  
コード番号 6696 URL https://www.traas.co.jp  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 藤吉 英彦  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役CF0 (氏名) 青柳 貴士 TEL 045-595-9966  
四半期報告書提出予定日 2023年9月13日 配当支払開始予定日 -  
四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
四半期決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

## 1. 2024年1月期第2四半期の業績 (2023年2月1日～2023年7月31日)

## (1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年1月期第2四半期	122	△53.0	△58	-	△65	-	△65	-
2023年1月期第2四半期	259	42.6	△8	-	△15	-	△16	-

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年1月期第2四半期	△14.57	-
2023年1月期第2四半期	△4.43	-

## (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年1月期第2四半期	514	428	83.1
2023年1月期	527	327	62.0

(参考) 自己資本 2024年1月期第2四半期 427百万円 2023年1月期 327百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年1月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2024年1月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2024年1月期 (予想)	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

## 3. 2024年1月期の業績予想 (2023年2月1日～2024年1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	542	9.2	11	-	8	-	8	-	1.94

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有  
詳細は7ページ「四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年1月期2Q	4,815,491株	2023年1月期	4,196,725株
② 期末自己株式数	2024年1月期2Q	111株	2023年1月期	111株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年1月期2Q	4,474,618株	2023年1月期2Q	3,735,752株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) キャッシュ・フローに関する説明 .....	2
(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第2四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	7
(セグメント情報等) .....	7
(重要な後発事象) .....	7
3. その他 .....	8
継続企業の前提に関する重要事象等 .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当第2四半期会計期間の末日現在において判断したものであります。

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルスの感染予防対策の緩和による経済活動の正常化が進み、サービス消費が緩やかに拡大するなど個人消費が持ち直したほか、堅調な設備投資やインバウンド需要から景気は緩やかに回復しました。一方で、円安や資源価格の高騰等による資源価格の高止まりによるインフレの継続とその抑制のための政策金利の引き上げの影響による経済活動の停滞が見込まれる等、世界経済の停滞も依然として懸念されており、国内経済の先行きは依然として先行きが不透明な状況が続いております。

このような事業環境の中、当第2四半期累計期間においては、当社の成長方針に掲げる、BtoB市場に向けたモノづくりを基盤としたSaaS月額課金サービスやオウンドメディア構築等、新たな顧客獲得に向けた、営業体制及び営業活動の強化を推進し、TRaaS事業での人材採用、マーケティング強化等の経営資源集中と「店舗の星」、「AIrux8」の大型ソリューションにおけるSaaS月額課金型ビジネスの導入件数の積み上げにも一定の時間がかかっておりますが、業務効率化によるコスト削減に努め、営業利益はほぼ計画どおり進捗いたしました。

TRaaS事業では、大型ソリューションである流通小売店舗を対象としたDX店舗活性プロダクト「店舗の星」や日本市場に向けたAIによる電力削減ソリューション「AIrux8」を中心としたSaaS月額課金型収益拡大を目指し、その土台構築を進めてまいりました。「店舗の星」については、DONKI(Thailand) Co., Ltd. 様への正式導入も決定し、2023年8月以降、順次導入を進め、更なる販路拡大を目指してまいります。また、「AIrux8」も日本市場に向けた戦略的な販売パートナーとして加賀電子株式会社様との協業を進め、多くの商談が進行しており、その導入に向けた準備を着実に進め、事業拡大を目指してまいります。

受注型Product事業においては、前期の既存顧客からのSTB大型受注案件の反動で前年同四半期比で売上高は減少しておりますが、テクニカルサービス事業におきましては、堅調に売上を確保いたしました。

当事業年度下半期には、各事業における案件が集中しており、この各事業における案件での売上高を着実に積み上げ、通期黒字化を目指してまいります。

以上の結果、当第2四半期累計期間の経営成績における売上高は122,212千円(前年同四半期比53.0%減)、営業損失は58,564千円(前年同四半期は8,373千円の損失)、営業外費用において社債発行費償却を5,222千円計上し経常損失は65,240千円(前年同四半期は15,798千円の損失)、四半期純損失は65,181千円(前年同四半期は16,567千円の損失)となりました。

なお、当社は「ターミナルソリューション事業」の単一セグメントであるため、セグメント毎の記載をしておりません。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産)

当第2四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ13,473千円減少し、514,439千円となりました。これは主に、現金及び預金が17,290千円、無形固定資産が15,000千円増加した一方で、受取手形、売掛金及び契約資産が38,534千円、社債発行費が5,222千円減少したことによるものであります。

#### (負債)

当第2四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末に比べ114,313千円減少し、85,699千円となりました。これは主に、流動負債その他に含まれる未払消費税等が14,909千円、転換社債型新株予約権付社債が97,500千円減少したことによるものであります。

#### (純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ100,840千円増加し、428,740千円となりました。これは主に、転換社債型新株予約権付社債の転換及び新株予約権の行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ82,681千円増加した一方で利益剰余金が65,181千円減少したことによるものであります。

### (3) キャッシュ・フローに関する説明

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は、405,975千円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において営業活動による資金の支出は、29,705千円となりました。これは主に、売上債権が38,534千円減少した一方で、税引前四半期純損失65,036千円を計上したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において投資活動による資金の支出は、19,870千円となりました。これは主に、無形固定資産の取得により資金が17,248千円減少したこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において財務活動による資金の収入は、66,783千円となりました。これは主に、株式の発行による収入67,711千円等により資金が増加したことによるものであります。

(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、当事業年度は下期偏重で推移することを見込んでおり、2023年3月7日付で公表しました業績予想からの変更はありません。なお、上記予想は、現在入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年1月31日)	当第2四半期会計期間 (2023年7月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	388,684	405,975
受取手形、売掛金及び契約資産	67,694	29,160
商品及び製品	27,825	24,223
原材料及び貯蔵品	41	49
その他	9,964	11,373
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	494,210	470,781
固定資産		
有形固定資産	2,043	5,363
無形固定資産	16,827	31,827
投資その他の資産		
差入保証金	4,952	4,803
その他	4,657	1,664
投資その他の資産合計	9,610	6,467
固定資産合計	28,481	43,658
繰延資産		
社債発行費	5,222	—
繰延資産合計	5,222	—
資産合計	527,913	514,439
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	5,118	1,533
未払法人税等	4,194	3,250
賞与引当金	5,946	6,908
その他	27,025	14,007
流動負債合計	42,285	25,699
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	97,500	—
長期借入金	60,000	60,000
その他	227	—
固定負債合計	157,727	60,000
負債合計	200,013	85,699
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	510,493	593,175
資本剰余金	456,119	538,801
利益剰余金	△639,024	△704,206
自己株式	△246	△246
株主資本合計	327,341	427,523
新株予約権	557	1,216
純資産合計	327,899	428,740
負債純資産合計	527,913	514,439

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2022年2月1日 至 2022年7月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2023年2月1日 至 2023年7月31日)
売上高	259,780	122,212
売上原価	132,317	60,307
売上総利益	127,462	61,904
販売費及び一般管理費	135,835	120,469
営業損失(△)	△8,373	△58,564
営業外収益		
受取利息	1	29
補助金収入	2,500	—
消費税差額	—	207
還付加算金	25	8
その他	486	—
営業外収益合計	3,013	246
営業外費用		
支払利息	27	16
新株予約権発行費	—	1,500
社債発行費償却	580	5,222
遊休資産諸費用	9,795	—
その他	35	182
営業外費用合計	10,438	6,921
経常損失(△)	△15,798	△65,240
特別利益		
新株予約権戻入益	6	203
特別利益合計	6	203
特別損失		
本社移転費用	240	—
事業整理損	390	—
特別損失合計	630	—
税引前四半期純損失(△)	△16,422	△65,036
法人税等	145	145
四半期純損失(△)	△16,567	△65,181

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2022年2月1日 至 2022年7月31日)	当第2四半期累計期間 (自 2023年2月1日 至 2023年7月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純損失 (△)	△16,422	△65,036
減価償却費	5,330	3,706
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△20	961
受取利息及び受取配当金	△1	△29
補助金収入	△2,500	—
支払利息	27	16
社債発行費償却	580	5,222
為替差損益 (△は益)	△1,120	△82
新株予約権戻入益	△6	△203
新株予約権発行費	—	1,500
売上債権の増減額 (△は増加)	△6,425	38,534
棚卸資産の増減額 (△は増加)	22,508	3,596
仕入債務の増減額 (△は減少)	△3,316	△3,584
その他の資産の増減額 (△は増加)	8,011	△424
その他の負債の増減額 (△は減少)	13,899	△13,617
小計	20,543	△29,441
利息及び配当金の受取額	1	29
補助金の受取額	2,500	—
利息の支払額	△27	△16
法人税等の支払額	△290	△276
営業活動によるキャッシュ・フロー	22,727	△29,705
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△987	△4,405
無形固定資産の取得による支出	△1,028	△17,248
短期貸付金の回収による収入	—	2,395
長期前払費用の取得による支出	△430	△611
敷金の回収による収入	44,375	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	41,928	△19,870
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
リース債務の返済による支出	△354	△441
株式の発行による収入	747	67,711
社債の発行による収入	143,037	—
新株予約権の発行による支出	—	△486
新株予約権の発行による収入	539	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	143,969	66,783
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,120	82
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	209,746	17,290
現金及び現金同等物の期首残高	120,099	388,684
現金及び現金同等物の四半期末残高	329,846	405,975

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期累計期間において、転換社債型新株予約権付社債の転換及び新株予約権の行使がありました。この結果、資本金及び資本剰余金がそれぞれ82,681千円増加し、当第2四半期会計期間末において、資本金は593,175千円、資本剰余金は538,801千円となっております。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。但し、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社の事業セグメントは、ターミナルソリューション事業のみの単一セグメントであり、セグメント情報の記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

### 3. その他

#### 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、当第2四半期累計期間において営業損失58,564千円、経常損失65,240千円及び四半期純損失65,181千円を計上し、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせる事象又は状況が存在していると認識しております。

しかしながら、収益面では、当社の成長方針に掲げる、BtoB市場に向けたモノづくりを基盤としたSaaS月額課金サービスやオウンドメディア構築等、新たな顧客獲得に向けた、営業体制及び営業活動の強化を推進し、TRaaS事業での人材採用、マーケティング強化等の経営資源集中と「店舗の星」、「AIRUX8」の大型ソリューションにおける将来のSaaS月額課金型ビジネスの導入件数の積み上げに向けた展開を拡大してまいりました。加えて、前事業年度より継続して業務効率改善による経費の見直しと経費圧縮も積極的に推進しキャッシュ・フローの最大化に努めました。

2024年1月期の業績予想についても営業利益の計上を見込んでおり、上記施策を継続して推進し、黒字化達成に向けて取り組んでまいります。

以上の施策を行うことにより、業績の改善と共にキャッシュ・フローも確保できると考えており、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。